



新しくなった物産館の入口横にはポストも設置されました

売り場の面積が増えて通路が広くなりました



## 広くなった市観光物産館

増築工事が終わり、4月に新装開店した市観光物産館。その中は、今まで以上に使いやすい工夫がされ、新しい施設もできました。

400㎡広くなったことで少し手狭だった通路や休憩スペースが広がり、多くの人が行きかたり休んだりしやすくなっています。

また、コミュニティFM放送スタジオが設置（開局は来年度を予定）されていて、こちらさまざまな活用方法が検討されているようです。

市商工観光課では「これからの季節、お出かけついでに寄っていただき、伊達市ならではの物産品や伊達を満喫できる情報をお求めください」と話していました。

## 野口観光株が寄付 — 市の地域発展のために —

4月4日、野口観光株代表取締役社長の野口秀夫さんと、常務取締役の野口敏秀さんが来庁し、市へ1,000万円を寄贈しました。

野口社長は、「伊達市には素晴らしいところがたくさんある。その伊達市の地域振興にぜひ役立てて欲しい」とお話されていました。

菊谷市長からは「伊達市をより一層住みよくするために大事に使わせていただく」と感謝の言葉を伝えました。



菊谷市長に寄付目録を渡す野口社長（左）

## 自己紹介で意気込みを語る新人職員



## 13名の新人職員が初登庁

4月1日、市職員として新しく加わった13名が、菊谷市長から辞令を受けました。

その後すぐに、3日間の新人研修がスタート。研修では市長や副市長の講話、公務員としての心構え、接遇研修など、職務上の基本的な内容を学びました。

新人職員は「1日でも早く仕事に慣れ、市民の皆さんのために頑張りたい」と話していました。

緊張した面持ちながら、やる気にあふれていますので、市民の皆さん、よろしくお願いします。

## 新1年生への交通安全啓発

4月8日、伊達小学校で新1年生への「交通安全啓発」が行われました。

これは、子どもたちの交通安全を願い毎年行われるもので、今年も菊谷市長、伊達警察署長、伊達ライオンズクラブ、伊達地区交通安全協会などの関係者が、玄関前で交通安全を呼びかけました。

冷たい風が吹く中、「入学おめでとう。車に気を付けてね」と記念品を渡されると、笑顔で元気に「ありがとう」と応えていました。



記念品を受け取る新1年生

厳粛な雰囲気の中、祈願祭が行われました



## 交通安全を祈願 — 安全で安心な北海道を目指して —

4月4日、伊達神社で交通安全祈願祭が行われました。当日はあいにくの天気でしたが、神社本堂に約40名の関係者が集まり、祈願祭がスタート。

主催者の市交通安全協議会能戸副会長が「交通事故ゼロを目指し、関係者の皆さんと連携をとりながら頑張りましょう」と挨拶しました。

雪から解放される北海道の春は、外出の機会が増え、事故も起こりやすくなるといわれますので、運転手・歩行者それぞれが交通安全を心掛けましょう。



## 好天に恵まれた 「第27回伊達ハーフマラソン大会」

4月20日、伊達市の春の恒例行事「伊達ハーフマラソン大会」が開催され、市内外から多くのランナーが参加し、大盛況のうちに終了しました。スタート地点のカルチャーセンターには、朝早くから参加者が集まり、大勢の人の中でウォーミングアップをしたり、音楽を聴きながら集中する様子などがみられました。

応援する人が増え始めた午前10時50分、花火の合図とともに、まずはハーフマラソンがスタート。その後、小学生駅伝、10km、3km、5kmの順にスタートし、どのランナーも自然を満喫しながら、春の市内を走り抜けました。



春の日差しの中を走り抜けるランナー



集合場所は参加者でいっぱい！